

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある
地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。

このコーナーでは、市が取り組む
「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。

問 まちづくり支援課 ☎82・3910/IP ☎88・9094

1 災害に強い地域を目指し

「防災訓練」を実施！

(5月26日)

〔東榛原まち協〕

当まち協は、大型の災害発生に備えるため、今年度から3年計画で「災害に強いまちづくり」を目指して、自主防災組織づくりに取り組んでいます。この避難訓練には約800人が参加。榛原東小学校では避難生活を想定してブルーシートで区画を設定したり、簡易トイレ作り、段ボールのベッド作り、小型ポンプでの初期消火訓練など、また非常食の試食

体験も行いました。

これから地域住民による共助の意識を高めていきます。



▲簡易トイレ作りと使い方説明

〔内牧地域まち協〕

当まち協では、連合自治会と共催で地域の防災訓練を実施。それに合わせて、たかぎふるさと館で防災教室も開催しました。教室には約120人が参加して過去の被災写真の展示、DVDによる防災学習会を行いました。最後にはゲストとして、桂三馬枝師匠をお招きし、みんなで落語を楽しみました。



▲防災教室の様子

〔榛原地区まち協〕

当まち協では、協賛事業として各自治会等による防災訓練に参加しました。あかね台自主防災会をはじめ、地区内の駅前、新駅前、菟田川、柳、角柄の各自治会が防災訓練や救命救急などの訓練を実施しました。

参加者は約400人、それぞれが自分に身近な事として意識を高められたようです。



▲救命救急の訓練の様子

2 田口弁財天

石楠花の丘花がら摘み

〔田口地区まち協〕

5月3日から5日まで、室生田口元上田口にある弁財天石楠花の丘にて石楠花まつりを開催し、訪れた約

1800人の方をもてなしました。

開花後の5月19日には、花がら摘みを実施。早朝より集まった37人のボランティアが、一日かけて数千本ある石楠花の花がらを丁寧につまみ取りました。

この作業は花弁の下を指で支え花弁全体を引くようにすると、大きな力を加えることなく花がらを摘み取れます。樹高が低い花がらは、1メートルぐらいの短い竹ざおを使い、枝を手練り寄せながら摘み取っていきました。しかし、高いところは脚立を立て、その上に登って摘み取る作業が続きました。

ボランティアの中には、田口地区以外から参加された方もおられ「来年も美しい花を見るための大切な作業だから、自分の花を育てているみたいで楽しいです」と、笑顔で話していました。



▲斜面に脚立を立てての花がら摘み

3 阪神百貨店梅田本店

「新・手技工房展」

2019 に出展

5月22日から28日の7日間にわたり、阪神百貨店梅田本店にて「いい技・いい暮らし 新・手技工房展」が開催され、全国からイチョウまな板や陶器や鉄器、手打ち刃物などのこだわりの名品、手作りの木櫛や帽子、ブラシなどずっと使いたくなる品物、暮らしを豊かにする桐タンスなどの工芸品がずらりと集められました。

宇陀市からは、奈良時代からの伝統技法で、鹿などの皮をなめした素材に漆で模様を描いた「印傳」のバツ

グや財布が出展されました。

同時開催で今回4回目となる、「つながる、ひろがる、新しいクリエイション 奈良・奥大和のものづくり」として、奈良県の山岳地帯の南部と、高原が広がる東部からなる「奥大和地域」も参加。その自然豊かな地域で生まれたクリエイターの作品も多数出展されました。

宇陀市からは、ステンドグラス製イヤリングなど世界に一つだけのアクセサリや、小物入れや写真立てなど木工作品、桧や杉の木でできた一枚板の高級感漂うテーブルや、丸太のスツールなど多数出展されました。来店者は、製作者のこだわりと熱意が入った魅力ある数々の作品に

感銘、感動を受けておられました。

このように集客効果の高い関西の大手百貨店と連携し、奥大和地域県連の生産品についてプロモーションと情報発信を行ったことで、当該地域の認知度向上に寄与することができました。



▲出展された作品の一部

まち協などの催し予定 7月

(6月14日現在)

日	曜日	イベント案内	主催
7	日	室生大野人権集会	室生大野まち協
14	日	枚方くらわんか五六市 出店	菟田野まち協
20	土	日本刀の祖「天國」の郷を訪ねて！ 第6回夏休みラジオ体操リレー	宇陀市の神話と歴史を考える会 榛原地区まち協
21	日	本郷ふれあいサロン	本郷まち協
26	金	夏休み子ども自転車教室	榛原地区まち協

ウメ

梅は、古くから日本に自生していたという説と、中国伝来説の二つがあります。しかし薬としての梅は、烏梅という名前で中国から来ました。烏梅は、青梅の燻製品で、痛みやせき、おう吐を鎮めたり、胃を健康に保つたりする薬効があります。青梅に含まれるクエン酸やリンゴ酸などの各種の酸によって、燻蒸中の煙に含まれるカルシウム、カリウム、マグネシウムなど多くの種類のミネラル群が取り込まれ、烏梅のあの強力な鎮痛作用が得られるのです。

青梅の果汁を煮詰めた梅肉エキ스는、明治時代に作られた先祖の英知が込められた薬で

す。梅肉エキスは、面白い抗菌作用を示します。強い菌であるコレラやチフス菌には数分で効果を現すのに、それより弱い大腸菌には効果が弱く、さらに弱い腸内常在菌は数十分たつても殺すことはできません。

梅干しを清酒に入れた梅干し化粧水を使うと、肌荒れ、シミなどの肌のトラブルが改善されます。梅酒と酒粕を混ぜたパックも有効です。梅を使った加工品である梅干し、梅酒、梅肉エキスなどは先人が苦労して作った食品であり、医薬品です。梅を生活に取り入れ、現代の有害な菌を防いで健康な人生を送りたいものです。



▲抗菌作用のあるウメ

※当市で「薬草活用講演会」をしていただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

薬草逍遙（やくそうしやうよう）
毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けする
コラムです。

問 産業企画課 ☎82・5874 / IP☎88・9075